一行詩部門

一般の部

応募総数 33 点

優秀賞

スーツ姿のパパより
エプロン姿のパパが好きと娘は言う
小さなエールが大きな支えに
イクメンパパの元気の源

櫻井　恵美（青野）

●審査員からのコメント
スーツ姿は仕事へ、エプロン姿は家族へ向かう父の心の違いを感じ取っている娘の思いと、娘の一言が育メンパパを元気かつ継続させることが出来るという、家庭内男女共同参画の温かく力強い推進力の例であると気づかされた作品です。

最優秀賞

「今日のお迎え誰かな？」
「パパだといいな。」と
二才児　言う
育メンパパに伝えてあげたい
励まし添えて

佐藤　美紀子（鉄砲町）

●審査員からのコメント
「パパだといいな」で父子の強い絆を感じさせ、お迎えの時の光景や会話が思い浮かぶような素敵な作品だと思います。「励まし添えて」の言葉からはパパのお迎えはまだ一般的でなく、男女共同参画のこれからの広がりを期待します。

入選

何事も男だけではいけないと
叫ばれつづけ　幾久し
参画は　手をとって
手を差し出して　行動し

三浦　健司（八日町）

入選

子育て支援に
地域のサポート
挨拶がわりに声かけ合おう
老若男女の
ちがいを超えて
頼り頼られお互い様よ

海野　京子（江俣）

入選

これは私　それはあなた
これは私がするもので
それはあなたがすることで
そんな先入観を捨てて
新しい世界を楽しめたら
隠れた自分の可能性に
きっと気付ける
持っていたい　自分の意見
考えたい　皆がよりよく生きること
待たないで　周りが変わることを
動きたい　まず自分から
広げたい　あなたと私の未来を

鳥山　優佳（十日町）

一行詩部門

中学・高校の部

応募総数 932 点

最優秀賞

赤ちゃんを抱く母
それを支える父
4本の手
わたしもいるよ
6本の手
あっ…「安心だね」

増子　颯起（山寺中　3年）

●審査員からのコメント
手をさしのべる家族みんなの笑顔と明るく元気な赤ちゃんの微笑みが目に浮かぶようです。愛と安らぎがあふれる家族の姿が良く表現されています。

優秀賞

「今日は父ちゃんがつくるぞ」
そう言って買い物に行く父
がんばって、楽しそうに料理する
おいしかったよ、ありがとう。

加藤　蒼子（蔵王一中　3年）

●審査員からのコメント
感謝の心と応援の気持ちが読み取れる作品です。「ありがとう」の一言が家族全員の笑顔に結びついている姿が目に見えるようです。

優秀賞

家事、育児
子育て、介護
できる父
そんな男に
ぼくもなりたい

佐々木　諒（三中　1年）

●審査員からのコメント
中学一年の男子生徒が描く理想の父親像が素直に表現されている作品です。この気持ちを大きく育ててくれることを期待いたします。

入選

ママにしかできない育児
パパにしかできない育児がある
男性もとろうよ「育児休暇」

上妻　陽和（商業高　3年）

入選

家に帰ると
お父さんとお母さん二人でご飯作り
「おかえり。」
二人の笑顔で
部活の疲れも飛んでいったよ。

津藤　緋梨（商業高　2年）

入選

単身赴任で気づいたようだ
ボソッと父が
「ありがとう」
そして母が
背中で笑顔

玉谷　彩織（六中　3年）

入選

どうせわかってもらえない
君はあきらめていないかい？
男だから、
女だからはやめにしよう
自分の思いを相手に伝える
それが自分らしく生きること

佐々木　淳美（蔵王一中　3年）

入選

デートDV
キズつく前に
気付こうよ

松村　搭子（商業高　2年）

入選

母の帰りが遅い時
食事はいつも
決まって父の激マズ料理
今日の出来映えは大失敗！
だってこんなにおいしいんだもん！

横山　一音（蔵王一中　3年）

佳作

いつもは仕事ばかりの父だけど
母が病んだとき、
早目に帰り、本領発揮。
何と！何と!!
母超える!!?

佐藤　歩（七中　3年）

佳作

男の人がやることを女の人がする
女の人がやることを男の人がする
変ではない
自分なりに上手くできれば

真田　さくら（日大山形中　3年）

佳作

お弁当
父が握るおにぎりと
母の作ったおかずとで
私の弁当愛たっぷり

小関　咲穂（高楯中　3年）

佳作

地域のお祭り、
女の子だって
おみこしかついで
大きな声で
みんなといっしょに
地域のために

岡崎　美里（蔵王二中　1年）

佳作

家事だって
一人でやれば「家事」だけど
みんなでやれば
「家族団らん」の時間

東海林　桃子（六中　3年）

佳作

「夫唱婦随」と
「婦唱夫随」
我が家の場合は
どちらも正解

太田　彩子（山大附属中　2年）

特別賞

学校賞

日本大学山形中学校

山形市立商業高等学校

長年継続して作品を応募いただいており、学年単位で取り組んで下さるなど、本事業へのご理解と継続にご尽力いただいた。

事業の主旨を理解いただき、家庭科の授業の一環として取り組まれているとともに、長年継続して大変多くの応募があり、本事業継続に多大な貢献をされている。